



## アングリカン諮問評議会 17 - 決議進捗報告

### レビューと進捗

1. ABCとセクレタリー・ジェネラルからの進捗報告を含むレビューを添付する。このスケジュールは作業中と見なす必要がある。このスケジュールは、常任委員会およびACCメンバーの概要を説明する手段として定期的に更新されることを意図したものである。そのため、決議のほとんどは、常任委員会の議題の各項目の中でより詳細に報告される。
2. 2022年9月に常任委員会に提出された最後の進捗報告書で、私たちは、ABC、セクレタリー・ジェネラルおよび常任委員会が責任を持つ決議をモニターしていることを常任委員会に知らせた。委員会とネットワークは、ACOリンク・ディレクターの監督下で、関連する決議の進捗をモニターする責任がある。

### 交通信号報告

3. 2017年に導入された交通信号進捗報告システムは継続している。スケジュールには、ACOのスタッフが主に行った、または支援した活動を記録するための「交通信号」システムが含まれている。

キャロライン・トンプソン

セクレタリー・ジェネラル付プライベート・セクレタリー

2023年1月

<b>A17:08 人間の尊厳</b>				
アングリカン諮問評議会				
1	2020年Lambeth Conferenceへの招待のパターンについて懸念を示し、一致の中心としてのカンタベリー大主教に対し、人々の懸念や声、特に自らが性別に関して疎外されていると感じている人たちの懸念や声を聞くために、協力的で独立したファシリテーションを備えたリスニングプロセスを確実に実施するよう求める。カンタベリー大主教はまた、Lambeth 1998年以降のアングリカン・コミュニオン全体で行われたこの分野のすべての成果を取りまとめ、常任委員会とACC18に報告する責任がある。	ABC	カンタベリー大主教は、性別関心が異なるために疎外されている人々に耳を傾ける独立したファシリテーションを備えたリスニングプロセスを確立する。カンタベリー大主教は、1998年以降の人間の尊厳に関する以前の成果を取りまとめる。常任委員会とACC 18に報告する。	実施時期は、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行、Lambeth Conferenceのスケジュールと形式の変更、またコンファレンス自体の延期の影響を受けている。
2	カンタベリー大主教に対し、アングリカン・コミュニオン全体のすべての差別問題を調べ、常任委員会に勧告を行い、ACC18に報告するよう求める。	ABC	カンタベリー大主教は、アングリカン・コミュニオン全体の差別を調査する。常任委員会に勧告を行う。ACC 18に報告する。	熟考の上で、カンタベリー大主教は、彼自身の管区であるイングランド教会のみを調べることができ、他の自治管区を調べることは難しい。イングランド教会はこの問題に多大な努力をしてきた。
<b>A17:11 持続可能な開発目標</b>				
4	セクレタリー・ジェネラルに対し、アングリカン・コミュニオンの持続可能な開発目標への取り組みに関する10年間戦略について、常任委員会に、2020年の最初のその会合までに報告するよう求める。	セクレタリー・ジェネラル/RC	セクレタリー・ジェネラルは、アングリカン・コミュニオンの持続可能な開発目標への取り組みに関する10年間戦略について、2020年4月までに常任委員会に報告する。	この活動分野の最新情報以来、Lambeth Conferenceは当初、持続可能な開発目標へのアングリカンの取り組みを支援するキャンペーン活動を歓迎してきた。これは、環境と持続可能な開発に関するランベスの呼びかけから出てきた具体的な呼びかけの一つであった。呼びかけの実施プロセスから出てきた決められた次のステップに基づいて、キャンペーンは引き続き発展・展開される。この作業は、アングリカン連合とのパートナーシップの下で行われることとなっており、現在4つの言語で発行されている。文脈的聖書研究リソースは、アングリカンの
<b>A17:14 核兵器の開発、使用および影響</b>				

5	<p>常任委員会に対し、ACC18が核兵器の開発と使用およびその影響に関する問題に対して、現代的なアングリカンの対応を策定することを確実にするよう求める。</p>	<p>セクレタリー・ジェネラル/Dir UN</p>	<p>常任委員会は、核兵器の開発と使用に対する現代的な神学的対応について計画、ACC18の期間中に開催。</p>	<p>この決議案の作業は2019年後半に開始されたが、作業を率いるスタッフメンバーの雇用が終了したため、無期限に一時停止された。前回決議のための実施に関する報告書は現在、提案となっている。ACC-18での作業をサポートするための、この問題に関する短い調査書を作成する作業は行われていない。AC OUNは、2022年6月の核兵器防止条約第1回締約国会議へのコヴェントリー主教の参加をサポートした。この会議の報告は、決議に従って、調査の執筆を</p>	
---	---	----------------------------	--	---	--

**B17:04 アングリカン・コミュニオンにおけるエキュメニカル・テキストの受容**

5	<p>常任委員会は、ACCLEファレンスグループを立ち上げるため、最大で15人を指名する。このグループの構成は次のとおち推奨されている。</p>			
a	ACC大主教メンバー2名	DirUFO	常任委員会は、ACCの大主教メンバー2名をACCLEファレンスグループに指名する。	
b	ACC主教メンバー2名	DirUFO	常任委員会は、ACCの主教メンバー2名をACCLEファレンスグループに指名する。	
c	ACCの司祭または執事2名	DirUFO	常任委員会は、ACCの司祭または執事メンバー2名をACCLEファレンスグループに指名する。	
d	ACC平信徒メンバー2名	DirUFO	常任委員会は、ACCの平信徒メンバー2名をACCLEファレンスグループに指名する。	

**C17:01 アングリカン・コミュニオン安全教会委員会**

3	<p>セクレタリー・ジェネラルに対し、常任委員会で承認された条件でアングリカン・コミュニオン安全教会委員会を再構成するよう求める。</p>	DirGJ	<p>セクレタリー・ジェネラルは、安全教会委員会を再構成する。</p>	<p>安全教会委員会が再任された。管区代表は多くの管区で任命されているが、多くの求めにもかかわらず、一部の州ではまだ代表を任命していない。</p>
---	---	-------	-------------------------------------	---

**C17:02 予算と加盟教会の分担金**

6	<p>セクレタリー・ジェネラルに対し、方式の実施について毎年常任委員会およびACC18に報告することを求める。</p>	リー・ジェネ	<p>セクレタリー・ジェネラルは実施について2020年4月、2021年4月、2022年4月に報告し、ACC18で報告する。</p>	<p>管区の分担金を計算する新たな計算式がACC17で合意されたが、2020年に加盟教会に対してこれを適用する際、私たちは多くの抵抗に遭った。2020年は元の金額が請求されたが、一方でACCは将来を考えた取り組みに励んだ。これは新型コロナウイルスの世界的大流行によって中断された。常任委員会は、加盟教会がパンデミックの間に直面した財政的な困難をよく認識しており、負担を増やしたくなかった。2020年以降、管区への請求額の増加はない。セクレタリー・ジェネラルは、大主教への訪問でこれを取り上げてきた。一部の主教は、割り当てられた金額を満たすことが難しいことを述べ、アングリカン・コミュニオンへの義務を示すためにいくらか分担</p>
---	---	--------	---	--

**C17:04 アングリカン・コミュニオン事務局戦略計画**

3	<p>セクレタリー・ジェネラルに対し、戦略計画の実施について常任委員会に少なくとも年1回報告することを求める。</p>	タリー・ジェ	<p>セクレタリー・ジェネラルは、少なくとも年1回実施について報告する。</p>	<p>2020年に常任委員会に報告することになっていたが、審査委員会報告の影響を受けた。Lambeth Conferenceの成果も、アングリカン・コミュニオン</p>
---	---	--------	--	--

4	<p>常任委員会に対し、定期的に計画を見直し、そして特にACC、Primates' MeetingまたはLambeth Conferenceの後に計画を見直し、常任委員会が適切と考えるように計画を変更し、次のACC会議にこれらを示して説明することを求める。</p>	タリー・ジェ	<p>常任委員会は、計画を定期的に見直し、必要に応じて修正し、ACC18に報告する。</p>	<p>事務局戦略計画に反映される。</p>	
---	--	--------	--	-----------------------	--